

事業所名		城山れんげの里（児童発達支援）				支援プログラム		作成日		R7	年	2	月	1	日
法人（事業所）理念		私たちは「お互いさま」の気持ちを大切に未来を目指して、自閉症（児）者等の人権を尊重し、障害のある人たちが自らの能力を活かし、笑顔がこぼれる人生を歩むことができるように支援します。 ① 障害のある人の生きていく困難を理解し、心豊かな生活が送れるように支援します。 ② 障害を個人だけの問題でなく、社会全体の問題としてとらえ、障害のある人たちを受け入れる社会づくりに努めます。													
支援方針		子どもたちに発達上の課題に応じた適切な療育を提供し、自己肯定感を高め、多様性が尊重される中でその子らしさが発揮できる支援を行います。また様々な葛藤を抱える保護者の相談に応じていきます。													
営業時間			9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無		あり	なし					
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	活動を通して、基本的な身だしなみの支援(衣類着脱・整容・靴の着脱など)を行う。生活習慣として、手洗い等衛生的な支援を行う。生活の中で困った時に、自分で簡単な解決ができるよう支援するとともに、身振りや言葉で周囲の大人に助けを求められるよう支援を行う。													
	運動・感覚	広い建物の構造を活かし、楽しみながら体を動かせるよう、歩く・走る・ボール遊び・ジャンプ・くぐるなどの全身運動を取り入れる。折り紙やシール貼り（季節のカレンダー作り）、粘土遊びなどの制作活動を通して、手先の動きの発達を促す。作品作りを通して、自分の気持ちや考えを表現できるよう支援を行う。													
	認知・行動	活動を通して、子どもが自分で考え、試し、行動に移せるような経験を積めるよう支援を行う。遊びや制作活動を通して、さまざまな視点から物事を見たり、工夫したりする力を育む。													
	言語コミュニケーション	絵本の読み聞かせや、簡単な言葉のやりとりを楽しみながら行い、言葉の理解や表現の力を育む。遊びや集団活動を通して、友達や大人と関わる経験を増やし、コミュニケーションの力を育てる。													
	人間関係社会性	集団での遊び（鬼ごっこやボール遊び、簡単なルールのある遊び）を通して、友達と関わる楽しさを感じられるよう支援を行う。遊びの中で順番を待つ、譲る、気持ちを伝える経験を積み、感情のコントロールを学べるようサポートする。必要に応じて職員が関わり、子ども同士のやりとりがスムーズに進むよう支援を行う。子どもが自分で考えて遊びを発展させたり、やってみたいことを自由に提案できるような環境を整える。													
家族支援		療育後のフィードバックや個別支援計画での報告を通して定期的な情報の共有を行う。 個別支援計画の更新時期や、必要な時期に応じ定期的に面談を行う。					移行支援		進学時や就学時などに向けて、関係機関に情報の提供を行う。						
地域支援・地域連携		関係機関(他の児童発達・放課後等デイサービス事業所)・相談支援事業所に対して、定期的なモニタリング、面談を通して情報を共有する。					職員の質の向上		現場での気づき等を療育後に振り返り、共有と改善を行う。 施設内での勉強会や外部への研修を通してスキルアップを行っている。						
主な行事等		毎回、グループに応じた内容の療育を行っている。プログラムは大人が検討し提供するだけでなく、利用している子供たちのやりたいことを積極的に聞き、集団で話し合って決めている。 子どもたちの希望を聞きながらも季節の行事（夏祭り・ハロウィン・クリスマスなど）を行う。													